日本臨床発達心理士会千葉支部　2023 年度第 2 回資格更新研修会のお知らせ

日時　2023 年 10 月 22 日(日)　13 時 00 分～16 時 20 分　(12 時 30 分受付開始)

会場　千葉大学西千葉キャンパス　教育学部 1 号館 1 階大会議室。**対面形式で実施**。
千葉市稲毛区弥生町 1-33　JR 西千葉駅または京成みどり台駅より徒歩。
(車の乗り入れはできません)
千葉支部会員向け研修会、研修ポイント 1 ポイント(申請中)。
事前参加申込が必要、定員 80 名、参加費 500 円。

テーマ　「人権を守り、一人ひとりを大切にする支援
～学齢期を中心に成人へのつながりを意識した支援について～」
講師　野澤　和弘　先生　(植草学園大学　教授)

要旨

本年度は幼児・児童の人権を大きなテーマとし、第 1 回の研修では、不適切保育をテーマに採り上げ、保育の質の向上に向けた組織的な取組という視点から考えていきました。

第 2 回の研修会では、障害児者の人権に焦点をあてていきます。「障害者の権利条約」が採択されたことを契機に、「障害者基本法」の改正、「障害者虐待防止法」、「障害者差別解消法」等が整えられてきました。子どもをめぐる虐待と国の対策、障害者の権利をめぐる状況、家庭内や保育所や学校での関わりにみられる課題、さらには社会参加や自己決定などについて障害児者の福祉、障害児教育の場、そして日常を見直していきます。

その上で、臨床発達心理士の在り方、関わり方について、発達の社会的理解、教育や福祉の現場における他の専門職種や他機関等との相互連携に関する内容、子どもの最善の利益、障害児者の権利保障の観点等から改めて考えていきたいと思います。

〇参加方法等

◆千葉支部会員向け研修会(千葉支部準会員も参加可)。他支部からの参加はできません。
<u>事前参加申込が必要</u>です。
申込受付期間　<u>2023 年 9 月 20 日(水)より</u> 10 月 10 日(火)まで。先着順に受け付け、定員になりしだい締め切りといたします。氏名、会員番号(1 から始まる 8 桁の番号)を明記の上、jacdpchiba@yahoo.co.jp　宛てにメールで送信してください。

◆参加の可否、研修会資料の配布方法についてメールで送信します。申込時のメールアドレスに返信しますので、必ず返信メールが受け取れるアドレスから参加申込をしてください。

◆研修会資料は参加者にデータを事前に配布します(印刷したものを研修会当日に配布はいたしません)。

◆参加費(500 円)は、研修会当日受付でお支払いください。

◆2023 年度の会費が未納の方は参加できません。

◆研修会当日は、検温、手指の消毒、マスクの着用にご協力をお願いいたします。

千葉支部 2023 年度 第 2 回資格更新研修会 報告

2023 年 １０月２２日(日)13 時～16 時 20 分
対面による研修会　参加者 34 名
人権を守り、一人ひとりを大切にする支援
―学齢期を中心に成人へのつながりを意識した支援について―
講師 野澤　和弘 先生（植草学園大学）

今年度の第１回研修会では、不適切な保育をめぐり、子どもの最善の利益や権利擁護、他機関や他の専門職との連携の方法などの観点から、不適切な保育をどのように理解し、保育の質を高めていくとよいのかを考えました。今回の研修では、さらに学童期を中心に成人までも視野に入れつつ、ジャーナリストとして、また厚労省の委員などを通して、児童や障害児者への虐待等、日本の政策にも深くかかわってこられた野澤和弘先生にご講演をいただきました。

子どもの数が減っていく一方で、児童虐待をはじめ子どもが被害者となる事件等の件数が増えています。構造的な問題に加え、障害児者への虐待の問題では、さらに被害者側の声が見えにくくなってしまいます。障害児者の行動の問題は、それを「させない」方向への関わりが選択されてしまうことがあります。障害者施設での虐待を防止する上で、支援に関わる側が、支援から虐待へと至っていくグレーゾーンに気づき、自らの中に潜む芽にどう対峙するかが問われます。

次に、いくつかの施設等における行動の問題への取り組みの例が紹介されました。激しい自傷行為などを拘束によって抑止するのではなく、その行為がどのような意味をもっているのかを職員間で考え、試行錯誤の末にビートの激しいロックの音楽を聴くことで軽減されていった例、行動の問題が起きるきっかけを探し続け、満月の時期に生じることに気づき、その時期の環境を整えていった例、そして、障害のある子どもの父親でもあるご自身が体験された親子間のトラブルの背景について、何を訴えようとして選択された行動だったのかと何年も自らに問い続けている例…。問題とされる背景には、それまでの人生において培われてきた外から見えない感覚や記憶に動かされていることもあります。その人にとっての意味を理解しようと丁寧に時間をかけながらでも、正解の見えにくい中で様々な形の対話を続ける覚悟を問われた時間となりました。

障害があるために「配慮や支援を要する人」という見方の前に、人としての当たり前の実現を一緒に考えていけるよう、自らの障害観、障害者観を問い直していくことが必要であり、より多くの会員と共有したい研修内容でした。

（堀　彰人）